



郡山市 協議体の 活動状況

(令和3年12月1日時点)

発行：郡山市
製作・編集：郡山市生活支援コーディネーター
(社会福祉法人郡山市社会福祉協議会)

目次

○目次	1ページ
○協議体とは	2ページ
○協議体設置状況	3ページ



○郡山市の各協議体の活動状況

久留米地区	5ページ	田村地区	22ページ
大槻原田地区	6ページ	南地区	23ページ
熱海地区	7ページ	小原田地区	24ページ
大成地区	8ページ	緑ヶ丘地区	25ページ
名倉地区	9ページ	喜久田地区	26ページ
桃見台地区	10ページ	富久山地区	27ページ
安積地区	11ページ	大槻地区	28ページ
三穂田地区	12ページ	小山田地区	29ページ
湖南地区	13ページ	芳賀地区	30ページ
西田地区	14ページ	菜根地区	31ページ
日和田地区	15ページ	芳山地区	32ページ
逢瀬地区	16ページ	橘地区	33ページ
東部地区	17ページ	麓山・池ノ台地区	34ページ
中田地区	18ページ	薫地区	35ページ
開成地区	19ページ	希望ヶ丘地区	36ページ
片平地区	20ページ	金透地区	37ページ
大島地区	21ページ		

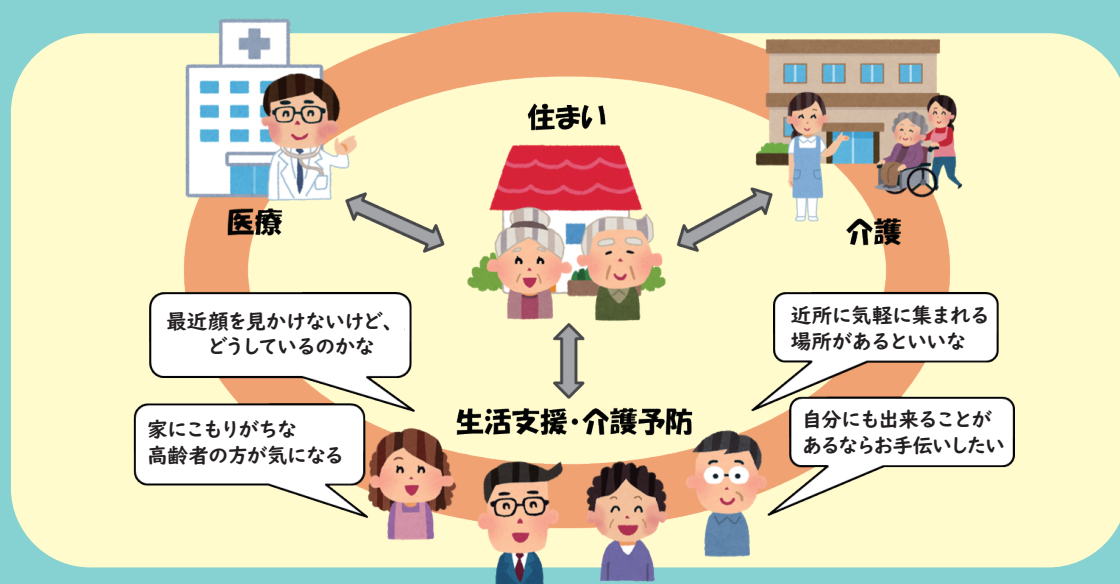
生活支援コーディネーターとは

生活支援コーディネーターは、地域支え合い推進員とも呼ばれ、郡山市社会福祉協議会が郡山市からの委託を受けて、住民のみなさんと一緒に、いつまでも住み慣れた地域で生活するための地域づくり推進活動を行います。



「協議体」とは…

地域住民の活動を知り、地域の「あったらいいね」を提案し、自分たちでできることを話し合う場



協議体の目的は… 地域みんなでやる、助け合いのまちづくり

元気なうちから、あるいは支援が必要になっても、地域に出て多世代の人とふれあい、助け合いながら、いきがいにもつなげていく、そんな基盤づくりを推進していくのが協議体です。

『自助』、『互助』、『共助』の力を組み合わせ、誰かの役に立てたり、生きがいを持って生活できるような、おたがいさまの仕組みづくりを郡山市では推進していきます。



地域のことについて話し合う

具体例

- ・買い物に行けない
- ・電球の交換が出来ない
- ・〇〇さん 最近みかけないね!

自分たちで出来ることを行う

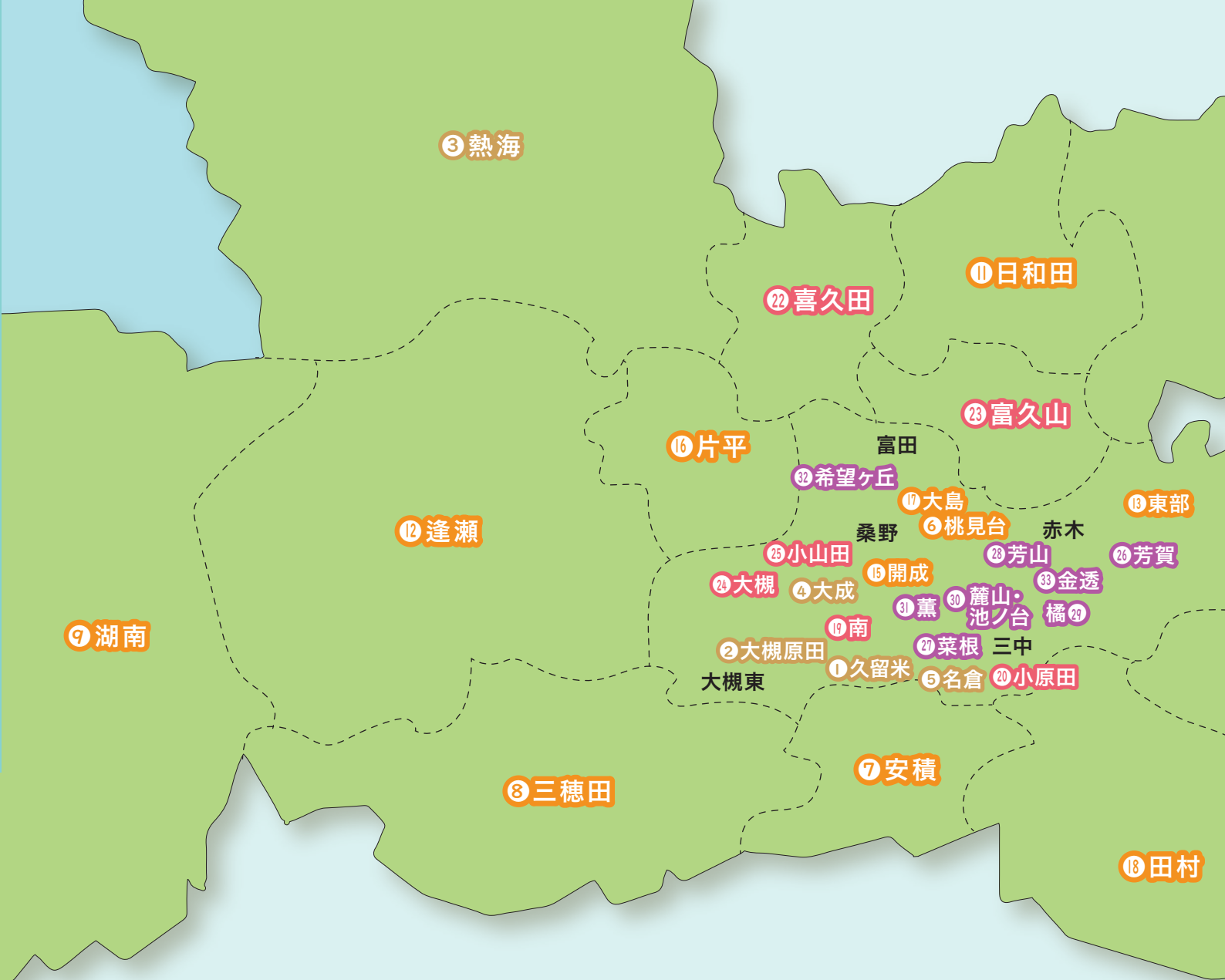
具体例

- ・居場所づくり
- ・専門機関につなぐ
- ・ちょっとしたお手伝いを行う

暮らしやすいまちになる

具体例

- ・あいさつが出来るまち
- ・孤立しない
- ・向こう三軒両隣の関係



郡山市第2層協議体の設置状況

(令和3年12月1日現在)

平成30年度設置

- ① 久留米
- ② 大槻原田
- ③ 熱海
- ④ 大成
- ⑤ 名倉

令和元年度設置

- ⑥ 桃見台
- ⑦ 安積
- ⑧ 三穂田
- ⑨ 湖南
- ⑩ 西田
- ⑪ 日和田
- ⑫ 逢瀬
- ⑬ 東部
- ⑭ 中田
- ⑮ 開成
- ⑯ 片平
- ⑰ 大島
- ⑱ 田村

令和2年度設置

- ⑲ 南
- ⑳ 小原田
- ㉑ 緑ヶ丘
- ㉒ 喜久田
- ㉓ 富久山
- ㉔ 大槻
- ㉕ 小山田

10 西田

21 緑ヶ丘

14 中田

郡山市では、郡山市社会福祉協議会の 38ある地区社協・支部社協のエリアごとに 協議体のスタートを目指しています。

※地区に1つの協議体を立ち上げる
のではなく、地区をさらにエリア分けし、
町内会等の単位で協議体を設置して
いる地区もあります。

一郡山市の概要一

福島県の中央に位置し、東北地方で仙台、
いわきに次いで第3位の人口規模を誇る、東北
の拠点都市です。

首都圏から東北新幹線で約80分というアク
セスの良さに加え、鉄道や東北・磐越両自動車
道が縦横に交差するなど、交通の利便性が良い
ことから「陸の港」とも称され、「人」「モノ」「情
報」が集まる中核市、そして経済県都として成長
を続けています。

今なお、東日本大震災や原子力災害が市民生
活に影響を及ぼしている中、B-1グランプリな
ど、復興イベントの開催や相次ぐ企業の進出な
ど、復興に向け着実な歩みを進めています。

2024年には、
市制施行100
周年の節目の年
を迎えます。



郡山市イメージキャラクター
がくとくん



がくとくんの妹
おんぶちゃん

令和3年度設置

- | | |
|-----------|-------|
| 26 芳賀 | 33 金透 |
| 27 菜根 | |
| 28 芳山 | |
| 29 橘 | |
| 30 麓山・池ノ台 | |
| 31 薫 | |
| 32 希望ヶ丘 | |

気持ち優しく、行動はさりげなく
当たり前の精神で続ける地域

① 久留米

活動レポート

世代を結ぶ多彩な活動・心育む見守り活動



マップ作りで
地域変化を見逃さない



ハイタッチが
繋ぐ子どもの地域の目

協議体参加者の声

- ・コロナ禍だからこそ、情報共有することは大切だ。
- ・毎日の挨拶や声掛けを継続することが重要だ。
近所付き合いを良くしている事が、
犯罪の減少につながる。
- ・事業所も地域の一員として連携していきたい。
- ・いつも見守りに行くというよりは
気にすることが大事だ。
- ・見守りをしながら、
信頼関係を築くため
今は外からの見守りに
力を入れ連携強化が
大切だ。



- ・地域内で買い物に不便を
感じている方の声が増え
ているため、ニーズ調査
を行った。
高齢者の後ろに、家族の
姿が見えて安心した。



【地区の特徴】

福岡県旧久留米藩士が入植し、開墾したことから名前が付いた郡山市久留米地区。福岡県久留米市の産土神「水天宮」の分霊を勧請し、地域のシンボルとして祀っている。そこには、地域の大切な交流の場として隣接して大きなグラウンドが2面あり、新型コロナウイルスの感染拡大以前は、球技大会、盆踊り、運動会を開催し子どもから高齢者まで大勢の方が参加していた。

また、毎年防災訓練を行い日頃から防災に備えている。

【活動の歩み】

平成30年5月28日 協議体設置
グループワーク「未来の暮らしを考える」

平成30年7月23日 協議体
災害を想定したマップづくり

平成30年9月25日 協議体

平成31年2月25日 協議体

マップづくりの情報更新、薬剤師から在宅でのお薬の飲み方を学ぶ、地域内の通いの場を紹介

令和元年5月28日 協議体

令和2年2月17日 協議体

前回の振り返り、日々の活動についての報告、マップづくりの更新・情報共有、「いきがい・助け合いサミットin大阪」に参加しての報告

令和2年10月12日・13日 協議体
(各2町会ごとに開催)

令和3年 6月28日・29日 協議体
(各2町会ごとに開催)

- ・前回の振り返り、マップの見直し・更新
- ・地域の高齢者買い物について(買い物弱者問題について)
- ・協議体の愛称について

令和3年11月22日 協議体

- ・愛称「久留米支え合いの会」に決定
- ・地域の高齢者の買い物についてのアンケートを実施した結果報告と今後についての話し合い

‘おたがいさま’の温かい気持ちが通う活動 団結力の強さで支え合う活動



協議体の愛称は「はらだ結の会」に決定

② 大槻原田

昔から行っている活動を活かした
地域づくりをみんなが意識する地域

協議体参加者の声

- ・いきいき百歳体操の他、高齢者世帯支援隊を立上げ、回覧板をまわし、電球交換など18件くらい対応している。
- ・「今出来ていることを知恵を出し合って周囲に広げていければ」「地元の方も施設に入っているの、夜の時間など施設で地域の方と交流できれば」

協議体の方向性

大槻原田地区は地域におけるたすけあい活動、資源が豊富にあり、出てきた課題に対しても「うちではこんな支援もできるからやろうか」といったようなお互いのできることを積極的に話し合うことが出来ている。住民主体で考えていける協議体にしていきたい。

地域でそれぞれがどのような活動を行っているのかを話し合うことで、地域の資源の確認が出来るので今後も協議体で様々な団体を巻き込んでの話し合いを行うことが必要。

現在、新型コロナウイルス感染症の影響により集まる話し合いを行うことが難しい状況である。少人数で行っている活動を全体で情報共有していきたい。



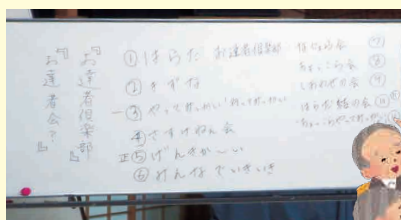
皆で意見を
出し合って
話し合う事が大切



【活動の歩み】

平成30年8月9日 勉強会・協議体設置
講話「あったらいいな、こんな助け合い」
(さわやか福祉財団さわやかインストラクター大山氏)

平成30年10月17日 協議体
前回の振り返り、協議体の愛称の決定
(『はらだ結の会』)、話し合い
「10年後皆さんの日常生活は…。」



【地区の特徴】

20年ほど前から区画整理され、平成28年に完了した新興住宅街。

道路整備の進捗とともに、近年急速に町が発展し、町外へ通勤通学する方や転入者が増えたことから、住民の交流で融和を図るため、町内会が多くの行事を手がける。

高齢者や未成年者の見守り、地域での支え合いは重要と考え、高齢者世帯の支援隊による生活支援、介護予防体操と交流会、友愛訪問活動を実施し、交流を図っている。

『向こう三軒両隣』、人との交流を大切にし、
お互いさまの気持ちを忘れない地域

③ 熱海

活動レポート

各種団体と連携した地域活動 『今日行く場所』をつくり出す



地域課題を情報共有



熱海地区に必要な
活動探し

協議体での取り組み

地域の課題から、熱海地区に必要なとされる活動等について話し合いを進めた。サロンに関する悩みや課題が多く出てきたことから、熱海地区で先進的にサロンを開催している地域住民に、サロンの立ち上げから今後の展望まで発表をしていただいた。各地区でサロンを開催している方やこれからサロンを立ち上げたいと考えてる方等、幅広くお声がけさせていただいた。

協議体参加者の声

- ・他地区の活動を知ることができ、とても良かった。
- ・話し合いを行っていき、熱海地区に合った協議体であってほしい。
- ・色んな方と意見交換がしたい。
- ・自分の地域に目を向ける良い機会となった。『助け合う』というためにどんな方法や取り組みがあるか、交流し合えるような機会があればいい。など

【サロンの現在】

年会費：500円(去年～)
→主に活動費に充てている
サロン会：①茶話会
②お誕生会(熱海地区社協との共催)
現在約30名が継続的に参加している

※歩いて来られない方へは送迎も行っている
「私たちはいつでも迎えに行きますので、安心してサロン会へ参加してくださいね」と皆さんにお声掛けをしています。

【地区の特徴】

熱海町は郡山市西部に位置しており、気候は年間を通して涼しい。冬は郡山市中心部と比較して積雪が多く、強風の日も多い。また、緑豊かなため山林が近くに感じることができる。

熱海行政センターを通り過ぎると温泉街が広がっており、磐梯熱海温泉を有することから郡山市の観光拠点の一つである。また、ユラックス熱海や石筵ふれあい牧場などもあり、子どもから高齢者まで楽しめるレジャースポットとなっている。



【活動の歩み】

平成30年10月2日 勉強会・協議体設置
グループワーク「いまから10年後の課題」

平成31年2月22日 協議体
グループワーク「地域で今出来ていること」「さらに出来ること」

令和元年7月31日 協議体
石筵地区のサロンについて『実践者報告』
グループワーク「地域でサロンは開催されていますか？」
「男性のサロン参加を増やすには？」

令和3年12月～ 協議体メンバーや各種団体等
熱海地区で地域活動を行っている方を対象に「地域づくりアンケート」を実施。回収後、アンケート結果をもとに、今後の協議体活動に反映させていく。

自分たちの手で創り出す、新しい地域づくり



大成地域力の発揮で
助け合い・支え合いの充実を！

4 大成

助け合い、コミュニティを
主体とした地域づくり

勉強会参加者の声

- ・一歩前に出る集会であって欲しい。
- ・仕事をしているので、集まりが土日だと助かる。
- ・地域の課題解決のためには、大成地域全体では地域が広すぎて具体化しないように思う。せめて、各町内単位ぐらいの組織体制のほうがいいのではないかな。

協議体の方向性

地域の30近くの多種多様な団体に協力をもらい、今後構成員、サポーターとしてそれぞれの立場からできることを話し合い「助け合いを中心とした地域コミュニティづくり」を目標に地域福祉活動の充実を図っていく。



【活動の歩み】

平成30年11月29日 説明会

事業説明、質疑応答など

参加者：町内会、支部社協、民生児童委員、医療機関、郵便局、高齢者あんしんセンターなど

平成31年2月4日 協議体設立総会

設立総会、

記念講演「あったらいいな、こんな助け合い」

(さわやか福祉財団さわやかインストラクター大山氏)

参加者：町内会、支部社協、民生児童委員、医療機関、郵便局、高齢者あんしんセンターなど



【地区の特徴】

大成地区は、郡山市のほぼ中央に位置し、住宅と商業施設等が混在している、都市化された地域。

また、通学区域になっている小中学校が5校、県立高校が2校、私立高校1校、大学が隣接し文教地区でもある。

5 名倉

活動レポート

楽しくトキメキを持てる活動 お互いにエンジョイできる活動



体力づくりを兼ねた
名倉雪かき応援隊



各種団体の垣根を越えて
心は1つワンチーム

協議体の方向性

雪かきを通して困った時にお互い様で言い合えるような関係や環境を築いていきたい。季節が巡っても、見守り活動を継続できる様、また、災害時の備えとして、地域支え愛マップを作成していく。今後は今ある活動のつながりから、ちょっとしたお手伝いを地域のご近所同士でできる体制づくりにつなげたい。

協議体参加者の声

- ・手を挙げられない方にこそ見守りが必要だね。
- ・空き家が増えてるから現状を知ること大事だね。
- ・隣近所で目が届く、おたがいさまの環境づくりを目指したいよね!!



協議体活動作成物



お便りを作成

【地区の特徴】

名倉地区は名倉、賀庄、久留米地域の一部で構成され、地域の中心には公民館があり、幅広い世代の集いの場となっている。五百淵公園に隣接し、郡山市内屈指の豊かな緑に包まれた地域である。

運動会や納涼盆踊り大会には350人が集う。コロナ禍でもクリーン作戦は継続されており、地域住民が一体となって、地域の流れる南川土堤や名倉公園の除草・清掃に汗を流し協力しあって活動している。学校、病院、スーパーが近隣にあり、利便性が良い。

【活動の歩み】

平成31年2月26日 協議体設置

令和元年11月15日 協議体

講話「もっと豊かな地域をつくるには」(さわやか福祉財団さわやかインストラクター大山氏) 地域住民のニーズについての情報共有。

令和2年2月28日 協議体

同年1月末～2月上旬に、名倉町内会全750世帯に、日常生活に関するアンケートを配付。前回の振り返り及び日常生活に関するアンケートについての話し合い。

令和2年6月25日 協議体(書面開催)

日常生活に関するアンケート集計結果報告。名倉町内会の回覧板を利用して全戸回覧を実施。

令和2年11月25日 「雪かき応援隊」を結成

コロナ禍でもできる活動について話し合い、地域内での雪かきを行った。同年12月から翌年3月末まで活動した。協議体の愛称を「名倉エンジョ・イー」に決定。

令和3年6月25日 協議体

雪かき応援隊の活動の振り返り、及び見守り活動の見える化と災害時に備え名倉エンジョ・イー支え愛マップの作成について検討。

令和3年10月28日 協議体

名倉エンジョ・イー 支え愛マップの作成

みんなで仲良く、まずは班で仲良く！ つながりづくり



「もったいない」を「ありがとう」に・・・！
コロナ禍の中でも、私たちにできること

⑥ 桃見台

「心と心の交差点」
笑顔いっぱい
桃見台

協議体参加者の声

～話し合い～

- ・生活に困っている方に、何か自分たちに出来ることは 無いか・・・。
- ・家庭で眠っている食料品や日用品・学用品を集めて必要としている方にお渡ししたい。

～活動～

- ・必要な所に届くために・・・！
桃見台地域の中で、広めるには・・・！
地域の目線で考えて・・・！
- ・地域の各種団体や地域住民みんなで、力を合わせて支え合いの輪が、どんどん！
どんどん広まってこのプロジェクトに取り組むことができた。

～気づき～

- ・声をかけてみたら、みんなが協力をしてくれた。
- ・こんなに沢山の物が集まって、感謝の気持ちで一杯だ。
- ・高齢になると、重いものなどの買い物が困難となっている。
- ・新型コロナウイルス感染予防のため、買い物を控えている方もいた。



4月1日・2日に桃見台地域公民館で物品寄付を募りました



2,801点の食料品・日用品・学用品などが、寄せられました。



社会福祉法人郡山市社会福祉協議会へ贈呈しました



桃見台方部民生児童委員の方々のご協力のもと、支援を必要とする地域の方々へ届けられました。



郡山市社会福祉協議会より感謝状が届きました。

【活動の歩み】

平成31年3月4日 説明会

桃見台地区地域ケア圏会議内で地域に支えあいの活動を広げるための仕組みとしての協議体づくりについて

令和元年6月6日 勉強会・協議体設置

協議体についての振り返りワークショップ
「ケア会議で出た地域の課題・資源について話合おう」

令和元年12月13日 協議体

講話「もっと豊かな地域をつくるには」
(さわやか福祉財団さわやかインストラクター大山氏)
前回のワークショップの振り返り

参加者：町内会、民生児童委員、支部社協、保健委員会、明るいまちづくり推進委員会、青少年健全育成協議会、公民館、高齢者あんしんセンター

令和3年4月1日～2日 協議体

「つなごう桃見台プロジェクト」
家庭で眠っている食料品「もったいない」を必要としている方へ届けて「ありがとう」に変える取り組みを行った。

主催：桃見台方部町内会連合会
協力団体：桃見台地区の各種団体

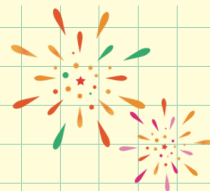
【地区の特徴】

郡山市の中心部に位置し、行政機関・医療機関・商業施設が充実している。東西南北に、主要幹線道路があり、交通機関の利便性も高く、郡山駅にも近い。地域の中には保育所・小学校・中学校・高校があり遊歩道「せせらぎこみち」など自然豊かな環境である。

「桃見台」という地名には、その昔、現在の桜木一丁目のあたりに、「郡が」と呼ばれる、この地方をまとめる役所のような役割をしていたところが置かれたことから、「郡がの山」と呼ばれるようになり、それがやがて「郡山」という地名になったと言われている。その後、その場所に郡山城が建てられた。この郡山城を守るため、現在桃見台小学校がある高台のあたりに「もの見」が置かれるようになり、「もの見台」と呼ばれこれが転じて、やがて「桃見台」という地名になったとのこと。

7 安積

活動レポート



どんな時も、オールあさか みんなの力で！



人を知り！地域を知り！
地域ぐるみで・・・😊



30町内会などで
オールあさか

設置の背景

これまで安積高齢者あんしんセンターが中心となり、「安積町地域の支え合いを考える連絡会」を平成27年から継続的に開催してきた。今後は、生活支援コーディネーターも連絡会やエリア会議に参加し、地域の現状を把握しながら情報提供やニーズの発掘を行い協議体の要素も含めて運営していくこととなった。

開催エリア

安積町を7つのエリアに分け、それぞれにエリア会議を開催し、年に2回程度全体会を行う。



【地区の特徴】

郡山南インターチェンジ、県道17号主要地方道郡山停車場線（旧国道4号線）及び国道4号をつなぐ郡山南インター線が整備され、交通の利便性がとてもよい。

まちを東西に流れる笹原川の川沿いには桜並木があり、春には満開となるため地域の観光地となっている。低地部は、農地としての土地利用も進められ、商工業ともバランス良く発展している。

ビッグパレットふくしまや遊園地があり、あさか野夏祭り花火大会も夏の風物詩ともなっている。成山公園、阿武隈川、笹原川など自然豊かな環境が多く残されている一方で、医療機関・商業施設も充実している地域。

【活動の歩み】

安積町地域の支え合いを考える連絡会 令和元年6月28日 説明会・協議体設置

事業説明、質疑応答など
参加者：町内会、民生児童委員、老人会、地区社協、医療機関、薬剤師、高齢者あんしんセンター、行政センターなど

令和2年6月3日 代表者打ち合わせ会

令和2年度の活動について
感染症と新たな課題・つながりづくりが出来にくい状況や体を動かす機会が減り、認知機能の低下や気分の落ち込みから要介護認定者が増加することが懸念される。

令和3年7月2日 代表者打ち合わせ会

全体会を秋ごろに開催予定で検討中
エリア会議（地域ケア圏域会議、協議体）を9月頃から再開予定。

設置後から現在までの個別の活動状況 （協議体の説明等計13回）

- ① 柴宮・大久保・雷神団地
- ② 鎌ヶ池・北井・巳六段・荒井
- ③ 長久保・西長久保・成山・安積中央
- ④ 南長久保・あさか台
- ⑤ 三日月市・笹川
- ⑥ 南吉田・牛庭・成田
サンステージこおりやま・
ガーデンシティ四季の丘
- ⑦ 日出山・南台・神明下

高齢者あんしんセンターとの連携について 打ち合わせ会の開催

令和3年5月20日・9月21日（ZOOMにて開催）
安積地域を知るための勉強会を開催
令和3年5月28日、6月10日、6月24日、
7月9日、7月30日

住民同士で支え合い、つながり合う地域活動



地域の力で支え合うための
住民支え合いマップ作成



地域全体でつながり合う
三穂田地区全12地区

8 三穂田

頼ってくれてもいいべし
お隣さんだからさすけねえ

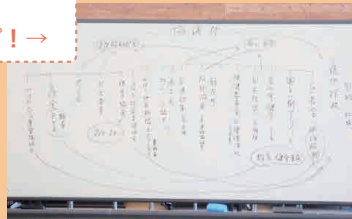
協議体の方向性

- ・異常気象や新型コロナウイルス感染拡大で、みんなで集まる事が出来ない
こんな時だからこそ、自分たちの出来ることということで、地域を見つめなおす・
日常の見守りや災害時に備えてマップを作り、見える化していく。

協議体参加者の声

- ・コロナ禍の中ではあるが、こんな時だからこそ
できることからまずはやってみよう！
- ・年々高齢者が増えている現状であるため、地域全
体で見守りや声掛け等をしていこう。
- ・住民同士で助け合い・支え合いを大切にしていきたい。
- ・住民支え合いマップを作成したことで、自分の住んでいる地域について再認識・
把握することができた。地域を見直す良い機会となり、マップを定期的に更新
することが大切だね。など

各種団体を
ピックアップ！→



【活動の歩み】

令和元年7月24日 協議体設置

三穂田地区で行われている通いの場(みほとカフェ)を核として協議体のメンバーを増やしながら情報共有をしていく場として協議体を設置。

令和2年1月15日 協議体

講話「もっと豊かな地域をつくるには」
(さわやか福祉財団さわやかインストラクター大山氏)

令和2年8月18日

協議体の方向性についての打合せ

通いの場(みほとカフェ)を核としていたが、協議体は地域全体への助け合い・支え合いについての情報共有の場のため、核を区長会とし、各種団体等と連携し、更に横のつながりを強める事とした。

令和2年10月29日 協議体打ち合わせ会

住民支え合いマップ作成のモデル地区を決定、愛称について検討。各種団体との連携強化のための話し合い。

令和2年12月3日

協議体住民支え合いマップ作成

富岡区山寺をモデル地域としてマップ作成を行った。

令和3年6月～8月

住民支え合いマップ作成強化月間

12地区ごとにそれぞれ集まり、各地区でのマップ作成。
全43班分全て作成完了。

【地区の特徴】

三穂田町の由来は、旧三和村と旧穂積村、旧豊田村の川田部落が合併し、各地名から1文字ずつ取られて名づけられた。町内は12の区に分かれ、平野部・山間部それぞれの特色を生かした産業が盛ん。

笹原川にかかる明神橋を中心として上下約2kmにわたる桜並木「笹原千本桜」や明治初期から続いている伝統の「唐笠行灯花火」が盛大に開催されるなど、自然と伝統にあふれている町。

支え合いや助け合いが根付いている素敵な町、湖南。
横の繋がりを強化して、地域力を高めていきます！

9 湖南

【地区の特徴】

磐梯山を正面に猪苗代湖の南側に位置し、月形・中野・三代・福良・赤津の5集落から成る。

戦国時代ごろから白河街道が通り、赤津、福良、三代地域には宿場町が置かれて栄えた。1962年に旧三森トンネルが開通して郡山市側へのアクセスが大幅に改善した。奥羽山脈により郡山市の他地区と隔てられており、気候的には会津地方と等しく郡山市内で唯一豪雪地帯と指定されている。

布引高原は「風の高原」ともよばれ、33基もの風力発電用風車が建設されており、高原から猪苗代湖と磐梯山を望む眺望と、猪苗代湖から眺める高原と風車群は、湖南町の魅力となっている。

活動レポート

子どもからお年寄りまで、みんなが「地域の宝」です！！
みんなが安心して暮らせる地域を目指します。

お互い様の精神が、
湖南には根付いています



みんながみんなを知っている。
それが湖南のいいところ♪

協議体の方向性

湖南地区は広いので、8箇所にエリア分けした地域の通いの場である「笑って、歌って、しゃべらんしょ！」を母体として協議体の設置を進めていくこととなった。

新型コロナウイルス感染症予防のため、活動を休止している今、再度アンケート調査を行い生活する上での困りごとを把握し、今後の協議体での話し合いに反映させていく。

また、高齢者だけでなく、様々な団体・年代の方からご理解ご協力をいただきながら、地域全体で活動に取り組んでいる。

現在協議体が立ち上がっているのは中野地区だけだが、他の地区の協議体立ち上げも目指している。



【活動の歩み】

令和元年8月25日 勉強会

【中野地区】・協議体設置

協議体についての説明、ワークショップ
「中野地区での困りごと、できそうなことについて」

令和元年11月17日 協議体

【中野地区】

支え合いマップづくり

令和2年2月2日 協議体

【中野地区】

支え合いマップづくり、雪かきボランティア、
地域課題について

令和2年6月

「中野ささえあい通信」の発行

協議体のお知らせ

令和2年11月

「中野ささえあい通信」の発行

コロナ禍における見守り方・見守られ方

令和3年1月

「中野ささえあい通信」の発行

冬場にひそむ危険、注意喚起

令和3年8月

「中野ささえあい通信」の発行

夏場に潜む危険、注意喚起

令和3年12月「中野困りごと調査」

(生活支援調査アンケート)の実施、
協議体の愛称を募集

高齢者が安心して免許返納できる地域づくり



免許返納はみんなの課題

今あるたすけあいを
これからも

協議体の方向性

これまでも各団体による活動が活発であったが、団体間で話し合う場がなかった。これからは、協議体を通して、それぞれが横のつながりを持ち、話し合いを行っていくことになった。

活動のテーマは『高齢者が安心して免許返納できる地域づくり』。新型コロナウイルス感染症感染予防の観点から大勢で集まることはできないが、第1回協議体で挙げられた解決策などをもとに、適宜活動に取り組んでいく。

協議体活動作成物

令和3年1月に乗合タクシーの利用方法を住民目線でまとめたお便りを作成。



【活動の歩み】

令和元年9月24日 説明会・協議体設置
説明「協議体って何？」

令和元年11月25日 勉強会
講話「もっと豊かな地域をつくるには」
(さわやか福祉財団さわやかインストラクター大山氏)

令和2年2月25日 協議体
免許返納に関する事例紹介、講話及び「免許返納が安心してできる地域づくりについて」の話し合い。

令和2年11月2日 活動に関する書面決議
新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、活動内容の意見を書面で取りまとめる。

令和3年1月
協議体活動作成物の発行と配布

地区内で運行している乗合タクシーの利用方法を住民目線でまとめたお便りを作成し全戸配付。

令和3年4月27日 協議体

住民同士の助け合い活動のより充実させる目的で、「たすけあい活動助っ人隊養成講座」を実施することが決定。

令和3年6月23日
たすけあい活動助っ人隊養成講座を実施

令和3年10月5日 協議体

今後の活動についての意見交換

10 西田

優しい気持ちがたくさん集まる、
ささえあいの町

【地区の特徴】

西田町は、阿武隈川を渡って東北の阿武隈山系に位置する山里の地域。

町の東部には、約300年続く三春人形の里「デコ屋敷」があり、その近くには画聖雪村周継ゆかりの雪村庵があるなど、城下町らしい文化が残り、多くの観光客が訪れる。

自然豊かで、冬、雪化粧した安達太良山が澄んだ空気の中に際立ち、春になると、紅白の梅の花々が良い香りを漂わせ、町中の立派な一本松の桜が里の春を彩る。

11 日和田

活動レポート

温故知新を大切にするまちづくり



地域の課題、
地域団体の活動を見直す



小中学校の校長先生にも参加して
もらい子どもたちの課題も把握

協議体参加者の声

- ・現状やっていることにプラスしてできることをやっていきたい。
- ・誰とでもあいさつができる町会を目指したい。
- ・いつもの顔ぶれではなく様々な人が参加できる場にしていきたい。
- ・学校側の課題も共有でき、いい場になっている。

協議体の方向性

地域の団体と連携をより強化しながら、小さい単位でのつながりづくりを進めていく。また子育て世代が新たに関わりを持てる場としても活用する。

現在は新型コロナウイルス感染症対策を講じ、書面にて「日和田地区での見守り活動」をテーマに協議体の開催を行っている。



【地区の特徴】

国道288号線、国道4号バイパス、東北縦貫道・磐越道インターチェンジなどの幹線道路が東西南北に通じ、「郡山市の北の玄関口」といわれる交通要衝の町。

さらには、土地区画整理事業による住環境の整備及び大型ショッピングセンターの整備に伴い人口が増加している町。

また、松尾芭蕉が「奥の細道」行脚の際に、花かつみを尋ね歩いたことなどから、市の花である「花かつみの里」として、花かつみの普及に努めており、水・緑・花があふれる町。

【活動の歩み】

令和元年10月28日
打ち合わせ・協議体設置

参加者：区長会長、民協会長・副会長、
地区社協会長、行政センター、
地域包括ケア推進課

令和元年12月13日 勉強会

講話「もっと豊かな地域をつくるには」
(さわやか福祉財団さわやかインストラクター大山氏)

令和2年1月10日 協議体

グループワーク『地域の中での課題について』

令和2年10月26日 協議体（キーパーソン）

今後の協議体活動について
→新型コロナウイルス感染症対策として
書面での開催とする。

令和2年11月24日 協議体（書面開催）

日和田地区協議体で取り組む地域課題について

令和3年7月2日 協議体（書面開催）

日和田地区の見守り活動について

令和3年11月16日 協議体（キーパーソン）

児童の見守り強化に取り組むこととなった。

子どもからお年寄りまで固く繋がり、 心豊かなまち



定期的に訪問活動をしています。
会うと自然と笑顔に…素敵な関係ですね！

お弁当に多田野小学校の児童からのお手紙を添えて、高齢者の皆さまへお届けしました。
気持ちのこもったお手紙に心もほっこり！



活動の方向性

逢瀬地区では、令和2年2月7日の協議体で挙げられた、以下の課題について掘り下げていくこととなった。

- ・1人暮らし高齢者との関わりと見守り
- ・日中独居高齢者との関わりと見守り

新型コロナウイルス感染症の影響で、3回目の協議体は開催を見送っているが、一人ひとりがいつまでも逢瀬町で暮らしていけるようにできることを模索している。

協議体設置会議（令和元年11月21日）の様子です。活発な意見交換がなされました▶



【活動の歩み】

令和元年8月23日
協議体設置に向けての勉強会

各種団体の方にお集まりいただき、地域の助け合い活動のシミュレーションを行いました。

令和元年11月21日 協議体設置

参加者：区長会、民生児童委員、地区社協、消防団、防犯協力会など

令和2年2月7日 第1回協議体活動

グループワーク「助け合い、支え合いについて」

- ・1人暮らしの高齢者の方が心配
- ・日中独居の方が多い
- ・元気な高齢者もいるなどの意見が出されました。



12 逢瀬

世代を超えてつながる
チャレンジ精神旺盛な地域

【地区の特徴】

逢瀬町は、郡山駅から西へ11km「陸の松島」と呼ばれる、名勝地「浄土松公園」をはじめ、「清水池公園」など多くの文化財が残る自然豊かなまちである。

また、江戸時代元禄の頃、豊年を祈願して始まったと伝えられる「多田野鍬柄舞田植踊り」は地元のお年寄りから中学生へ伝承されるなど世代間交流が盛んな町。

13 東部

活動レポート

住民同士の絆で、優しい見守り活動



豊かな地域を目指して
学びを深める



オレンジリングは
優しい見守りの証



協議体の方向性

地域の中の課題を洗い出しながら、これまで地域で行ってきた活動も活用し、具体的な取り組みを決め、実践していく。

協議体活動

コロナ禍での活動として、地域の見守り活動の強化を目的に、11ある町内会単位で認知症サポーター養成講座を実施している。

新型コロナウイルス感染症の影響で町内会の集会所利用を控えている町内会もあり、全域での開催は出来ていないが、昨年実施した町内会の中には、定期的の実施していきたいと、今年度も実施したところもある。



【地区の特徴】

東部地区は、郡山市の東側に位置し、阿武隈川沿いの地域では、明治時代から伝統野菜の『阿久津曲がりねぎ』が生産されている。

地区内にあるJR舞木駅構内には大小約30本の桜があり、見頃になる時期にはライトアップされているため、電車とライトアップされた桜を写真に収めようと、たくさん見物客が訪れる。



【活動の歩み】

令和元年10月4日 説明会

「協議体と生活支援コーディネーター」
参加者：町内会長、ボランティア、支部社協、民生児童委員、公民館、福祉施設

令和元年11月29日 勉強会・協議体設置

講話「もっと豊かな地域をつくるには」
(さわやか福祉財団さわやかインストラクター大山氏)
参加者：町内会長、学校、支部社協、公民館、民生児童委員、ボランティア

令和2年8月21日 説明会

「協議体と生活支援コーディネーター」、活動に関する意見交換
参加者：町内会長、支部社協、民生児童委員、公民館

令和2年12月～現在

「認知症サポーター養成講座」を町内会ごとに実施

今ある活動を更に充実させていくための活動



協議体についての理解を深めるための勉強会を実施

協議体参加者の声

- ・地域で行われているサロン単位ごとに協議体を開催し、新たな活動ではなく、今ある活動の拡充を図っていく。
- ・話し合えて出来ることからやってみたい。自分の出来ることを探したい。
- ・何か新しいことを始めないといけなのかと不安だったが、講師の話を聞いて肩の力が抜けた。
- ・すでに地区社協や自治会、民生委員が中心となり通いの場が活発に開催されているが、その活動をより充実させていく活動、昼間のサロンには足が向きにくい男性には男性ならではの集まりをしてコミュニケーションをとってもいいと思う。
- ・1つずつで良いので助け合いが出来るようにしたい。
- ・高齢者が多い地域であるが、元気な人が増えるよう活動したい。
- ・中田の地域性、団結力を活かして地域をもっと元気に！若い世代の人たちも中田に住みたいと思えるような魅力を感じる地域をつくっていきたい。



【活動の歩み】

令和元年12月3日 説明会・協議体設置
説明「協議体と生活支援コーディネーター」

令和2年2月10日 勉強会
講話「もっと豊かな地域をつくるには」
(さわやか福祉財団さわやかインストラクター大山氏)

令和2年10月 協議体(書面決議)
新型コロナウイルス感染症予防により協議体を開催することができないため、協議体の参加団体に向けて「令和2年度中田地区協議体の今後の活動内容について」の書面調査を行う。
⇒書面での調査の結果、アンケートを実施することで決定

令和3年3～5月 協議体

75歳以上のひとり暮らし世帯を対象とし『生活支援・介護予防に関する実態調査』アンケート実施。
⇒アンケートの結果、移動支援に結び付く困り事が多かった。

令和3年11月30日 協議体

有償ボランティア事業
『たすけあい活動 助っ人隊養成講座』を実施。

令和3年12月～ 協議体

協議体活動の幅を広げるため、中田地区にある団体、事業所をまとめた「中田地区団体・事業所ガイド」の作成中。

14 中田

団結力を活かして地域をもっと元気に！

【地区の特徴】

郡山市の東の玄関口に位置する農業が主産業の自然と文化が香る人口約4,000人の町。

1956年(昭和31年)に宮城村と御館村が合併し中田村が発足、1965年(昭和40年)に郡山市に合併される。

豊かな自然に恵まれた地には、歴史を感じる伝統芸能・文化が多く残され、江戸時代から続く「柳橋歌舞伎」や「海老根手漉き和紙」等が中田町ならではの風物詩となっており、春になると鮮やかな花をつける「紅枝垂れ地蔵桜・ハナモモ回廊」は大勢の花見客で賑わい、憩いの場所になっている。

郡山市の中心地でありながら、昔からの近所付き合いが残る地域

15 開成

活動レポート

工夫を凝らしたサロン活動 事業所と連携した地域づくり



地域課題を解決する
ための話し合い



地域づくりについて
知識を深める

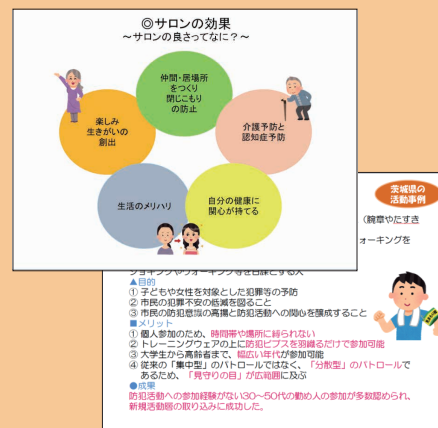
協議体の方向性

これまで開成地区で行われていた『地域ケア圏域会議』では、地域課題について何度も話し合いが行われてきたが、その一歩先の活動を目指し、『協議体』をスタートした。

見守り活動に関しては、負担に感じる地域住民が比較的少ないとアンケート結果から読み取ることができたため、今後は子どもや高齢者などの見守りの強化についても話し合いと活動を進めていく。

協議体参加者の声

- ・昔から開催しているサロン茶話会がもっと地域に浸透すればコミュニケーションはさらに増えると思うので、活性化していきたい！
- ・できるだけ地域活動には協力していきたい。
- ・サロン茶話会の男性参加率が少ないため、声掛けをしていきたい。
- ・施設の利用者が少ない時は、場所の提供にご協力できるかと思います。
- ・健康に関する情報提供ができる。など



【地区の特徴】

国道49号線及び県道6号線郡山湖南線(文化通り)が通っており、交通の利便性が高い地区である。また、区域内及び隣接区域には、大学、高校、小・中学校などの教育機関、公園、スポーツ・文化施設、病院、市役所などがあり、生活環境は良好である。

幹線沿いには、商店、各種事業所があり、アパート、マンションのほか、昭和30年代以降他地区から移り住んできた住民の一戸建ても多い。

【活動の歩み】

令和2年1月17日 協議体設置

協議体についての振り返り・グループワーク
「開成地区で住んでいて良かったと思うところ」
「男性のサロン参加率をあげるためには」

令和3年3月19日 協議体(書面開催)

アンケート調査を実施(協議体参加者21名対象)「高齢者のゴミ出し支援」
「子どもや高齢者の見守り活動」について

令和3年11月~

開成小学校と連携させていただき、頂いた「開成小学校危険箇所マップ」をもとに見守りが必要な箇所を確認。次回の協議体で危険箇所の情報共有を行っていく。

近隣の地域とのつながりも大切に、 みんなで手を取り合っています



愛情たっぷりのおせち作り！
(片平公民館調理室)



毎週、DVDを見ながら、元気にいきいき
百歳体操をしています。(蟻塚集会所)

活動の方向性

○令和3年1月6日

蟻塚地区の区長、蟻塚地区で活発に活動されている民生委員と今後の協議体の方向性について話し合った。

今後、蟻塚地区では、生活上の助け合い・健康づくりに関するアンケートの実施を予定している。

蟻塚地区からスタートした協議体活動を各地区に広げていく予定である。

片平地区では、各集会所が通いの場となり、いきいき百歳体操などが行われている。協議体を通して、片平地区をさらに盛り上げていく。



令和2年1月23日 勉強会の様子



【活動の歩み】

令和2年1月23日 協議体設置

『第2層協議体設置に向けた勉強会』

参加者：地区社協、
民生児童委員、
町内にお住まいの方々

サロン活動が活発な蟻塚地区から協議体をスタートすることとなりました。



にぎわう采女神社



うねめ供養祭の様子

16
片平

だれもが得意なことで
貢献する地域

【地区の特徴】

片平町は、郡山市の西部に位置している。

東北道の東側エリアは蟻塚地区などの新興住宅地で、学区は、小山田小学校、富田西小学校、郡山第六中学校となっている。西側エリアは旧来の集落と農業地域で、学区は、片平小学校、片平中学校となっている。

片平町は、およそ千三百年の采女・春姫の悲恋物語である采女伝説の発祥の地であり、毎年、うねめまつりの初日に『うねめ供養祭・かめ祭り』を開催している。

令和3年は、同様に采女伝説が伝わる奈良市との姉妹都市締結50周年にあたり、記念事業として、灯籠やろうそくの灯りがともしあがる幻想的な雰囲気の中で、『うねめ供養祭・かめ祭り』をコロナ禍の折、関係者のみで執り行った。